



2023年12月12日発行（通算第112号）
 連絡先 〒145-0061 大田区石川町1-26-8
 発行 呑川の会 代表 高橋 光夫
 呑川の会 e-mail : mitsuo.takahashi@nifty.com
 呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>
 高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

の み が わ



— 日本自然保護大賞2023 —

（選考委員特別賞：受賞セレモニー開催）2023年12月6日

記：佐瀬 優子

12月6日(水)午後、池上会館にて、日本自然保護大賞2023「選考委員特別賞」の授賞セレモニーが開催されました。今回の受賞は、25年以上にわたって続けてきた多岐にわたる当会の活動と、その集大成ともいべき総合的解説本「わたしたちの都市河川 呑川」の発行が評価されたものです。当日は、会員34名に加え松原忠義前区長をはじめ、これまでの当会の活動においてお世話になった方々や、近しい地域活動団体等の方々など24名ものご来賓をお迎えすることができ、会場は大変賑やかで和やかな空気に包まれました。



写真1：表彰式

日本自然保護協会の亀山選考委員長(写真左端)と土屋選考委員(写真右端)によるご講評の言葉からは、三面コンクリート張りの川に「自然」を見る、当会の姿勢そのものを高く評価してくださったことが感じられました。また、このような活動を「自然保護」として取り上げ表彰することによって、全国の都市河川における積極的な取り組みを応援したい、というお話もありました。表彰式では高橋代表、白石副代表に、賞状と盾が手渡され、その後、当会より、自然保護協会ならびにご来場の皆様に向けて、

呑川の会の歴史と現在の主な活動についてお話させていただきました。この賞を励みに、これからも呑川の環境改善に向け、川の楽しみを通じて地域がつながる活動を展開していきましょう。



写真2：受賞記念写真

—久原小学校ウォークと児童の感想—

記：佐久間芳夫

2023年10月17日（火）実施

久原小学校の呑川ウォーク学習は、10月17日、3年生146名を対象に行いました。この日は好天のもと、教員5名と多数の保護者、呑川の会からは教育専攻の大学生をふくめ18名が参加した。10班編制で午前8時40分学校を出発し、長栄橋から呑川沿いに蒲田の日本工学院まで歩きました。

帰途は蒲田駅から電車で、12時10分に学校へ。給食には呑川の会のメンバーもご相伴に預かり、美味しいパン、スープなどで楽しいひとときを過ごしました。後日、参加した児童たちの「お礼状」112枚が届きました。いずれも素直な感想があふれる内容です。その一部をご紹介します。

呑川について

- 昔は のめるくらい水がきれいだったことに おどろきました
- 呑川に海水が入っている。満潮だと水が増える。干潮だと減る
- 中流→下流になるにつれ、上流の水とは 思えない汚さでした
- 印象に残ったのは（酸素供給の）あわのこと、生きものが住みやすいようにと知った
- （清掃用の）ジェットストリーマーが1台しかなく、これで全部できるのかなあ

生きものがいっぱい

- 鳥の種類が32羽、魚の種類が27匹、虫の種類が42匹。教えてくれてありがとう
- この魚は？と聞いたら「クロダイ」、この鳥は？「ウダね」だって
- （この）探検まで カメやボラがいるとは 知りませんでした
- コイやボラが泳いでいるなんてびっくり。ボラがたくさん、ジャンプがきれいでした
- カワセミは見られなかったけど、カワウが見られてよかった

これからどうする？

- 毎日見ている、呑川はつままないと思っていたが、今日話を聞いていいものと思った
- 鳥や魚の名を教えてもらい、呑川をまた歩きたいと思った
- 生きものこと、水の流れの速さわかってよかった。パパとママに教えたい
- おかげで呑川のこといっぱい知れたので、将来の夢は呑川の人になってみたい、です



写真1：（ウォーク後）蒲田駅前に全員集合後電車で池上駅へ

—雪谷小学校の呑川探検—

記：高橋 恵子

2023年10月27日（金）実施

10月16日（月）呑川ウォーク事前学習が3年生の総合学習の一環として体育館で行われました。前半は高橋会長によるスライドを使っての解説、後半は4班（グループ）に分かれての「質問タイム」が設けられました。一班では古海会員から、呑川の会発行のガイド本「わたしたちの都市河川 呑川」を紹介しました。児童たちの呑川への興味・関心も一気に高まりました。また、この一冊で先生方もご存知なかった呑川の会の活動の一端が具体的に示され良かったと思います。

10月27日は好天のウォーク日和となりました。3年生123名（6班）を4名の先生方と呑川の会員17名（大学生3名含む）と保護者10名のサポート体制で桜門から出発（写真1）。雪の橋から上流に向い、中原街道の石川橋を渡り「清流復活の碑」までの折り返しコース。桜のきれいな雪の橋、ゴミ集積所のネットの垂れ下がった山下橋、「呑川の会掲示板」のある西の橋は、雪谷小に面しています。筆記用具無しのウォークだったので児童の観察集中度も増し、安全面からも大変良かったと思いました。ガス管や水道管の色の違いには「知らなかった」と言う保護者（お母さん）からの声も聞かれました。

二乃橋では、池上線の電車に手を振ったり、呑川で唯一川の上にいる児童遊園（一ノ橋）で一休み。水分補給をしながら呑川に関する写真を見たりしました。「保育園の時、お散歩に来た」と懐かしんでいる児童達の声も聞かれました。「お化けの木だ」と叫んだ柳橋では、大雨が降った時は呑川の水を中原幹線から多摩川に流すという説明に「へえ～凄い！」と言う声や、呑川を流れている水は、新宿落合の水再生センターから世田谷区、目黒区を通過して来ると言う説明には「長い・長い!」との声も聞かれました。

帰路では、二乃橋から色違いの木片チップを落とし、宮前橋までに流れつく時間をストップウォッチで計測しながら夢中で追いました。因みに、C班の計測時間は47.2秒でした。「あのチップは蒲田の方まで流れて行くんだね」「海に行くんだ」と感慨深そうに眺めている児童もいました。カルガモやセキレイなどを見た感動に加えて、別な思いも加わったようです。山下橋を右折して、旧呑川跡の道路（写真2）を歩きながら「だから真っ直ぐのコンクリート製に工事したんだね」と納得する声も聞かれました。呑川への愛着も一層深まったようです。12時前には、全員無事に帰校しました。



写真1：出発前先生からの説明（桜門にて@10:40）



写真2：旧呑川跡上の道路を歩く児童達

— 池上小学校の呑川探検 —

2023年11月29日（水）実施

記：森岡 小晴

5年生98名が10班に分かれ、呑川の会から18名が参加し、先生、保護者の皆さんと一緒に、ガイドと交通整理にあたりました。天候にも恵まれ9時から12時まで、上流班(A班)は、池上駅⇒御嶽山駅から東調布公園を通り呑川沿いを下り小学校へ、下流班(B班)は、池上駅⇒蒲田駅からあやめ橋を通り呑川沿いを上って小学校へと、2つのルートに分かれる形での初めての企画になりました。

今回は特に、児童とガイドが上流班と下流班に分かれ、電車を利用して長距離を歩くというウォーク学習であったため、児童たちの気付きがいつもに増して活発なように感じました。

蒲田駅付近では「すごい量のゴミ！網に引っかかった魚は出られないのかな…」とゴミフェンスに引っかかった魚を心配する様子や、「カモがヒナを連れていく！カモレースだ！」とカモを見て喜ぶ様子、「上流に行くほど透き通ってきれいになっている」と池上小学校に近づくにつれ水の流れの変化に気が付く児童や、「僕たちも川で遊ぶことはできますか？」と昔の写真を見て質問する児童、「下水が出てしまうなら穴を塞げばいいのに…」と下水が流れることに疑問を持つ児童など、スタートからゴールまで興味津々な児童たちの様子が見られました。以前から呑川ウォーク学習に参加させて頂いている中で、私は、この「呑川」という川は、児童たちに多様な気付きを生む川であり、それを学習の題材として扱うことに大きな意義があるのではないかと考えています。

呑川には、児童たちの好意的な興味を引く、ボラやカメなどの生き物や植物もあれば、水に浮かぶゴミやスカム、下水が出てくる穴など、児童たちから「なぜ…？汚い…」といったようなあまり好意的とは言えない興味を引くものもあります。

呑川ウォーク学習からは、水遊びや魚のつかみ取りができるような水に入ることができる自然河川から得られる気付きとはまた違い、児童たちが川の外側から、川の変化や流域にある多様な要素を吸収することで、多様で全体的な気付きが生まれているのではないかと思います。

ウォーク後は、各個人が学んだことをまとめ、班で共有するとお聞きしたので、上流班の学びと下流班の学びを共有し合った後、児童がどのような事を考え学習を広げていくのかとても楽しみです。



写真1：上流班(A班)：民家前の水路を眺める児童
湧き水を見たり触ったりしながら、水源にも興味を示していたようです。



写真2：下流班(B班)：木片を投下する児童
流れはおだやかでしたが、児童は集中して木片を追っていました。

洗足池小学校の総合学習支援

記:橋本 文興

洗足池小学校3年生の総合学習のテーマとして「洗足池公園」と「呑川」の良さが取り上げられ、6月23日同日に現地をそれぞれ案内しました。ルートは学校から堺橋を経て工大橋へ、地下道を通り蓋がけされた呑川を案内し工大橋で概要を説明しました。呑川の始まり(大田区内)である放水口を確認。3面コンクリートの擁壁、流れる水量の90%が下水処理水に驚かれていた。川下に下ると野鳥、カルガモ、ハクセキレイ、カワウが見られ歓声が上がりました。島畑橋では流速を測定。石川橋では、中原幹線(多摩川への放流口)を説明午前中に学校に戻りました。10月23日は、洗足池を先に見学したクラスに、理科室において呑川の概要をスライドで説明、その後多くの質疑を行いました。終了後学校側から次回は①呑川の会の人達や洗足池学習支援グループの取り組みやイベントを知りたい。②ボランティアの取り組みを体験したいとの提案がありました。

具体的には、呑川の会および洗足池学習支援グループに対して、「ボランティア活動」や「やりがい」について、生徒さんからの質問を受けて欲しい、との要望があり、①の質疑応答については、対応することにしました。

洗足池小学校は「令和4～5年度大田区教育研究推進校」の指定を受けていて、12月には研究発表するとの話を伺いました。

・11月6日は、4グループ分けて1回目の質疑応答を実施しました。

・12月7日の研究発表会では、全学年、指導単元の授業が各教室、家庭教室、体育館にて開催され、多くの来賓が会場を見学されました(写真1)。

呑川の会と支援グループは、家庭科教室にて3年生の单元名「洗足池公園と呑川の良さを守る人の思いや苦勞を伝える」について、生徒さんたちの質疑応答(6グループ)を受けました。その時、短期間で詳しくまとめた「呑川の概要図」を私たちに見せてくれました。活発な質問があり短い時間でしたが、私たちの呑川を守る思いが伝わったと思っています。



写真1:研究発表会場

第57回雪谷文化センターまつりに展示参加

記:藤原 弘和

10月14日(土)、15日(日)の二日間、大田区雪谷文化センターにて「ふれあいまつり2023」が開催され、当会は活動発表展示に参加しました(写真1ご参照)。雪谷地区周辺の方々が多数来場され、呑川に飛来す



写真1:展示会場

る鳥などの生き物の写真や呑川関連書籍・パンフレット 呑川流域の関連工事資料などご覧いただきました。来場者の方からは「呑川にこんなに色々な生き物がいるとは知らなかった」「呑川にカワセミが来ることもあるんだ見てみたいね!」などの声が聞かれ、ユスリカについては雪谷地区ということもあり認知度が高いように感じました。また雪谷文化センターの隣にある東調布公園で始まっている呑川合流改善事業についても熱心にご質問をいただきました。今回説明員として参加させていただき、同じ大田

区に住んでいても、呑川の上流域、下流域で皆さんの関心事は大きく異なることは大変興味深く、大田区民全体での呑川のあるべき姿の共有が今後必要なことではないかと感じました。

秋の都市河川ウォーク ～目黒川ウォーキング

記：志澤 勲

目黒川(有名な桜並木の紅葉巡り)

目黒川ウォーク：11月18日(土)開催 25名参加

大崎駅東口9:40集合→御成橋→五反田ふれあい水辺公園→目黒区民センター公園(昼食)→中目黒公園
(花とみどり学習館・講習)→目黒川船入場公園(見学) 15:00解散

※ 散策コースとしてもお進めです。途中の五反田、目黒、恵比寿から目黒川船入場へのショートコースでも良いコースです。途中遊覧船に会いましたが皆さん笑顔でした。(しながわクルーズTel050-3395-7780)



写真1:遊覧船

※ 目黒川は長さ8km、目黒区と品川区を流れ東京湾に注いでいます。落合水再生センターの処理水を主な源流としているので呑川とは兄弟のような川ですが、まるで別格でした。川沿いの桜並木で散歩を楽しむ人、川に面しているお店など豊かな空気が流れて、呑川が背を向けられているのに対して、目黒川は周辺の価値を高めていました。(写真1, 2ご参照)

※ 中目黒公園の「花とみどりの学習館」で目黒川の取り組み、また、目黒川沿いでの説明もして頂きました。

・目黒区は、毎年6月に船入場で「いきもの発見隊」を開催し、子供たちは魚類の専門家とともに実際に生物調査をします。

・落合水再生センターから毎秒200～300ℓ配水されているので、年間512万円、1日約20万円の費用がかかるそうです。雨水と生活排水を分ける 分流式下水道(田園調布では実施)を進めたり、浸透性のある舗装で湧き水を増やしたり、工夫が必要です。合流式下水道の問題点を考えたいです。

※ 目黒川船入場公園で上流から川幅が広くなり、その付近に岩が配置され鳥たちの楽園になっています。流れに踏ん張って魚を狙うアオサギ、ゴイサギの親子、カモ類、カワセミなど鳥好きにはたまらない場所。

※ 行政がしっかりとした長期ビジョンを打ち立て継続することが目黒川と魅力ある街並みを作っていると思われれます。「川は私達の資源なのだ」という認識こそ大切でこの差が今の呑川と目黒川になったのでしょうか。私達市民が改善の意識をもって、新しい呑川を作っていきたいと心の底から思いました。



写真2:五反田大崎橋付近散策



写真3:目黒川沿いでの説明風景

呑川源流「深沢神社～桜新町」ウォーキング

記：佐久間芳夫

12月2日(土)素晴らしい晴天。一行18人は、都立大学駅前からバスに乗り世田谷区深沢坂上へ。深沢流れ源流探しはここがスタートです。まずは、近くの「深沢橋」地点から呑川緑道を上流に向かい左手の深沢神社境内へ。可愛いミニ太鼓橋がかかった小池に湧き水が。流れる先の三島公園の古池には、傍らに洗い場跡があって、先人の生活ぶりを忍ばせてくれました。

次いでこの日 本命の「深沢八丁目無原罪特別保護区」。「無原罪聖母宣教女会」という修道院の庭園、およそ3,000平方メートルの鬱蒼とした森に囲まれた池です。水に映る紅葉も美しく、住宅街によくぞこんな自然豊かな原風景が残されていたものと感動しました。この池の水は、隣の「深沢の杜緑地の池」(ともに湧水源)を経て呑川親水公園の循環水になっているとのこと。

一行の歩みは、その後右や左と細い道をたどります。いずれも幅1mほど。明らかに昔は水路だったと思われる小路が多い。さながら毛細血管のように水路を張り巡らせ、呑川は水を集めていたこととなります。最後に着いたのは「桜新町1丁目41番地」。有名なサザエさん通りからかなり入ったところに、呑川究極の水源地はありました。残念ながら扉があり奥までは行けませんでした。世田谷の古地図にも、ここが「呑川水源」との表記があるとか。そこで、今回ガイド役の白石さんが「世田谷区にお願いし、ここに「呑川源流の地」の碑を！」と提案。参加者は全員「異議なし」と、拍手を送ったのでした。



写真1：集合写真（呑川最源流探検参加者 @新町南公園にて）

☆1 新入会員紹介：石田祐幸（ゆうこう）さん（2023年9月入会）



今は上野毛駅近くに住んでいます。呑川が懐かしく入会しました。小中学校時代には、道々橋八幡前に住んでいました。呑川は兩岸に草が茂る小川で、周りも一面畑で、網を持ってドジョウ、ザリガニやオニヤンマなどを採って遊んだものです。高校大学時代は雪谷小学校の南側に住んでいましたが、社会人になって世田谷に引っ越しました。宜しくお願いします。

☆2 新入会員紹介：敷地 顕（しきちあきら）さん（2023年9月入会）



大森清陵会(大森第四中学校同窓会)の敷地顕です。矢口多摩川で生まれ、市野倉(大田区中央)に移住。池二小・大森四中を経て、國學院で地学部長を務め、法政大学でも地理学を専攻。蓮沼(西蒲田)に移住し、星槎大学を卒業。生涯一貫して大田区民であり、池上祭の歴史写真展示に例年参加し、大学の研究でも大森貝塚・本門寺を調査。現在、文芸事業所でブログ記事制作を担当。郷土の魅力を発掘する作家たるべく、皆様と学ばせて頂く所存です。

「呑川の会」当面と近日の活動日程

記：高橋 光夫

*「会場確保」のため変更することがあります。

| | |
|--|---|
| <p>「日本自然保護大賞(選考委員特別賞) 受賞セレモニー」 2023年12月6日(水)14:00~15:30 「池上会館」第1会議室 *「セレモニー」閉会後のご歓談タイムも有意義な時間となりました。</p> | <p>「池上小学校」呑川ウォーク 2023年11月29日(水) 8:45~12:00 *晴天に恵まれ、「上流と下流」の2コースに分かれて案内しました。 池上小学校5年生では初めての呑川ウォークでした。</p> |
| <p>「洗足池小学校・呑川学習」 質疑応答 2023年12月7日(木) 13:30~14:15 *児童20人の質問に「呑川の会」会員の11人が答えました。</p> | <p>「呑川の会・定例会」 2023年12月16日(土)13:30~16:00 「ふれあいはずぬま」 *「定例会」終了後17時~「忘年会&受賞祝賀会」(場所:玄海鮪池上店)久しぶりに！</p> |
| <p>「会報のみがわ」印刷・発送 2023年12月12日(火)13:30~ 「こらぼ大森」作業室 *事務局以外にもみんなで作業しています。</p> | <p>「池上図書館」呑川展示コーナー 2023年11月23日~12月13日 館内にて *写真パネルや「入会案内」「会報」等を展示しています。</p> |
| <p>「大田区・エコフェスタ」 「池上会館」2024年2月17日(木) 10:00~12:00 13:00~15:00 ・テーマは「SDGs」、呑川の会も出展 ・参加者の事前申請はなくなりました。</p> | <p>(都市河川勉強会) 「JIA 城南ふれあいフォーラム」 2024年2月10日(土) 「建築家協会」からのお誘いです。</p> |
| <p>「呑川源流ウォーク(無原罪聖母教会)」 2023年12月2日(土)「呑川源流碑」も探る。 「春の都市河川ウォーク(古川・新川)」 2024年3月を予定 お花見も楽しみです</p> | <p>< 2024年定例会の予定 > ふれあいはずぬま:13:30~16:00 (1月18日(木):予定) (2月22日(木):予定) (3月16日(土):予定) *「呑川FB」をご覧ください。</p> |

(編集後記) (記：松本秀雄)

12月6日(水)、池上会館において、「日本自然保護大賞(選考委員特別賞)受賞セレモニー」が盛大に開催されました。当日の様子は、2024年1月に放映予定です(J.COM)。なお、DVD視聴希望の方は連絡下さい。また、久原小・雪谷小・池上小・洗足池小各校の呑川学習支援活動も12月7日(木)で、一段落しました。そこで、12月16日(土)の定例会の後、忘年会及びお祝いの会「日本自然保護大賞:選考委員特別賞受賞」を「池上駅近くの玄海鮪池上店(3754-8648)」で行う予定です。久しぶりの開催、皆さん是非ご参加下さい。
・受賞を記念して2024年3月下旬から、池上図書館での「連続区民講座」を計画中。毎月1回土曜日の開催(5回+呑川ウォーク1回)の方向で調整を行っています。皆さま よいお年をお迎えください。